研究会に行こう！

「研究会に行こう！」では基礎・境界ソサイエティの研究会などの様子を御紹介しています。
情報交換や懇親、新たな研究との出会いの場としてはいかがですか？

■信頼性研究会（R）

信頼性研究会では、毎年、北海道から沖縄まで様々な都道府県で年 8 回の研究会を行っており、全国に広く分布する信頼性研究者が最新の研究成果について討論する貴重な機会を提供しています。しかしながら、ほかの多くの研究会と同様に、2020 年 4 月からのコロナウィルス感染拡大の影響で、従前のような対面での研究会の開催が 1 年以上開催できない状況が続いており、オンラインでの研究会参加のメリットを享受しつつも、より臨場感のある環境で参加者の満足度を高めるための工夫について模索しているところです。

信頼性工学は、電子情報通信に限らず、工学や情報学などあらゆる技術領域において不可欠であり、安全・安心を最高の価値基準とする全ての分野に共通して必要とされる境界領域です。2020 年度からは「信頼性」のキーワードに限定することなく、「安全性」やその周辺に関わる分野も包括するよう研究分野の裾野を広げることを実践しています。ほかのソサイエティとの共催研究会も頻繁に行っており、エレクトロニクスソサイエティに所属するレーザ・量子エレクトロニクス研究会、光エレクトロニクス研究会、電子部品・材料研究会、機構デバイス研究会、情報・システムソサイエティのディペンダブルコンピューティング研究会などと共催研究会を開催したり、日本信頼性学会や IEEE Reliability Society Japan Joint Chapter との相互交流も推進しています。

ほかの研究会ではあまり見られない信頼性研究会の特徴として、これまでほぼ毎年のように開催されていた「見学会」の存在があります。風力発電施設や自衛隊のレーダ基地など、通常は気楽に見学することが容易ではない施設の見学会を研究会の前後に企画することで、信頼性問題に直結する多くの実問題に触れる機会を提供できるよう心がけています。信頼性研究コミュニティのグローバル化の一環として、国内で開催される関連国際会議に協賛することは継続して行っていますが、信頼性研究専門委員会が主催となって国際会議を運営する段階には至っておらず、今後は中国・韓国・台湾などの関連学会と連携することで国際的な活動についても充実していきたいと考えています。

必ずしも信頼性だけを専門とする研究者だけでなく、広く信頼性の問題に興味をもたれている参加者の方々にとっても有意義な研究会となるよう、これからも魅力的なプログラムや新しい企画をどんどん取り入れていきたいと思っておりますので、多くの皆さまに信頼性研究会にご参加頂くことを願っています。

土肥正（正員）

1992 広島大学大学院工学研究科・博士後期課程中途退学、同年広島大学工学部第二類助手。2002 広島大学大学院工学研究科教授、2021 同大学院先進理工系科学研究科教授、現在に至る。博士（工学）。信頼性・保全性システムに関する研究に従事。2021 年度から電子情報通信学会信頼性研究専門委員会委員長。電子情報通信学会、情報処理学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本信頼性学会、IEEE Computer Society、Reliability Society 各会員。

■複雑コミュニケーションサイエンス研究会（CCS）

複雑コミュニケーションサイエンス（CCS）研究専門委員会は、2011 年 4 月に時限研究専門委員会として発足し、2015 年 4 月から NOLTA ソサイエティのもと、常設研究専門委員会として活動しています。2021 年度は常設研究専門委員会として 7 期めを迎えることとなります。

これまで、CCS 研究会では、複雑ネットワーク理論や非線形ダイナミクスのアプローチを駆使して、通信・ネットワーク分野への応用をはじめとして、神経系や生物システム、更にはソーシャルコミュニケーションやヒューマンサイエンスまで含む広範な研究対象に対して、そこにある現実的問題の本質や限界に迫り、それらに潜在する普遍的特質を明らかにするサイエンスの創出という役割を担ってきました。

2020 年度には総合大会において「人と機械の調和するシステムデザイン」というテーマのセッションを企画し、素晴らしい講演者の皆様による御講演とパネルディスカッションを主宰することができました。この場を借りて御礼を申し上げます。

また、CCS 研究会では、学生の皆さんや若手研究者を積極的に奨励する取り組みにも力を入れています。毎年発表された口頭発表論文の中から優秀な研究発表を行った若手研究者を選出し、「複雑コミュニケーションサイエンス研究会奨励賞」として表彰しています。これまでの受賞者のなかには現在活躍している研究者も多く、本研究会の発表の場が重要な役割を果たしていることがうかがえます。